

人文学部 日本伝統文化学科 主要科目のねらい、特色、内容
基礎・教養科目

キャリアデザインⅠ

【ねらい】

大学生生活のスタートで躓かぬよう公私を含め、大学生としての自覚を促す。また、1年生から社会人基礎力を意識させ、後の就職活動の基礎を早期に養成する。

【特色】

講義は時事問題や身近な例を踏まえ、関心の持てる内容にする。一方通行の講義にならないように個人で行うワークを多用する。

【内容】

大学生としてのマナーを習得し、目標を持った大学生生活の過ごし方の必要性を学ぶ。
働き方による賃金・社会保障等の差を理解し、これからの時代に必要な働き方を学ぶ。

キャリアデザインⅡ演習

【ねらい】

正社員として働く重要性を認識させ、一連の就職活動をサポートする。就活に対するモチベーションを上げ、前向きに取り組めるようにする。

【特色】

講座は実践的な内容になり、パワーポイントを使用して具体的な就活の場面を再現し、その対応策を視覚にとらえて理解できるように配慮する。

【内容】

自分の内的キャリアを意識した職業選択を行えるようにすることから始まり、仕事研究、業界研究、企業研究、エントリーシートの書き方を経て、最後に面接対策を学ぶ。

スタディスキル

【ねらい】

大学で学ぶための心構えとそのために必要なスタディスキルを身につける。

【特色】

少人数クラス編成により個別指導が受けられ、レポート作成の基礎知識が身につく。

【内容】

高校までの「勉強」とは異なり、大学では「学問」に取り組む。そこで、はじめに学問の精神について学び、学問に取り組むために必要となるスタディスキル（大学で学ぶための技能）を習得する。

文章表現演習

【ねらい】

論文作成のためのアカデミック・ライティングを身につける。

【特色】

少人数クラス編成により個別指導が受けられ、レポート・論文を書くための知識と能力が身につく。

【内容】

論文の構成・体裁などについて学ぶとともに、論文を書くための基礎能力を鍛えるトレーニングを行う。これらの基本的なスキルを獲得したうえで、課題発見（テーマ設定）から論文の仕上げまで段階的に論文の執筆作業を進めていく。

情報入門 I, II

【ねらい】

大学生活でパソコンを活用するための基本的な技術と知識を獲得する。

【特色】

パソコンを利用して、「調べて・まとめて・発表する」技術と能力を養う。

【内容】

パソコンを用いた調査・収集の仕方・レポートの書き方・発表の仕方・提出の仕方について知識を得て、実習を通して Word、Excel、PowerPoint 等アプリケーションソフトの基本的利用方法を学ぶ。

新聞を読む

【ねらい】

インターネットで配信される情報を確認する方法が主流となっているなかで、新聞を読むことの重要性を再確認する。新聞を読むことを通じて社会人への一步を踏む。

【特色】

毎回の授業では、最初に新聞記事のコピーが配られ、受講者各自はその記事に目を通し、その後、教員から記事の背景についての講義を受ける。

【内容】

基本的に時事的な事柄を扱う。特定の事象に偏らず、現代日本の様々な社会的事象に関する記事を読んでいくことで、現代日本が抱える様々な問題点について考察していく。

倫理学

【ねらい】

現代の諸問題を倫理的に読み解く姿勢を養う。

【特色】

21 世紀の初頭私たちを取り巻く状況と問題を倫理的視点から見たとき、どのような問題が浮かび上がってくるかをアクチュアルな事件・出来事を素材に考えていく。

【内容】

「生命倫理学」と「環境倫理学」の2主題に焦点を絞り、これを材料として倫理的に考えるということはどういうことかを学ぶ。

情報社会論

【ねらい】

情報技術の中立性、社会的規範との関係を軸に理解を深め、真の情報リテラシーの習得を目指す。

【特色】

コンピュータを用いたコミュニケーション、情報の収集・整理・加工・分析・提示の方法についても実習を交えながら学習する。

【内容】

情報技術の社会への応用という側面から捉え、様々な利用局面においてどのような技術が使われているのかについて講義し、さらには情報通信技術が日常生活に落とす様々な「影」についても取り上げる。

専門科目

<p>「伝統文化総合」</p> <p>【ねらい】 日本伝統文化学科で学ぶ学問の全体像を示し、学生が入学後 4 年間で学ぶことのおおよそを知り、自分の学びの方向性を考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>【特色】 日本の伝統文化を学ぶために、日本史、日本文学、日本語、民俗、芸能、美術などの幅広い分野を授業で学ぶ。</p> <p>【内容】 日本伝統文化について広い範囲について学び、興味を持った分野について文献調査を行い、レポートを作成することによって、今後の大学でのより高度なレポート作成のための基礎を学ぶ。</p>
<p>「日本文化史概論」</p> <p>【ねらい】 古代から明治初期にかけての日本の文化についての基礎的な知識を身につけるとともに、日本の文化の特色について理解する。</p> <p>【特色】 日本の文化をアジア圏というエリアのなかで考察する。特に中国や朝鮮の文化の影響を受けながらも日本独自の文化を形成していった過程について考察する。</p> <p>【内容】 各時代の特徴を顕著に表すと考えられる習俗・道徳・宗教・学問・芸術などを取り上げ、日本文化の特徴について考察する。</p>
<p>「日本文学概論」</p> <p>【ねらい】 日本文学の定義から説き起し、日本文学の研究の歴史、さまざまな研究方法について、文学の発達に従い学ぶ。</p> <p>【特色】 古典文学の研究手法および近現代文学の研究手法を、文学の研究の歴史に沿って考え、学ぶ。また、いくつかの方法については実際に分析をしてみるなど、実践的な概論となることを目指している。</p> <p>【内容】 文学とは、日本文学とは、という文学研究の原点から始まり、できるだけ様々な文学研究の方法を学ぶ。また、短い論文を読み、まとめることにより研究方法を実地に学ぶ。古典から近現代文学まで広く研究方法を学ぶ。</p>
<p>「日本語表現法」</p> <p>【ねらい】 論理的文章を書くために、論理的思考の訓練をし、その思考をそのまま文章に表わせるような「型」を身につける。レポートや卒業論文など「書く」ことへの抵抗感を減らし、自分の意見を明瞭に伝えられるようにする。</p> <p>【特色】 半年間、与えられた課題に対する「批評文」を授業時間内で繰り返し書き、翌週にその「批評文」をもとに講義を行う。評価は「★（1点）」「☆（0.5点）」で行い、「★★★」をとるまで及第できない。また、新聞投書欄への投稿（全員）があり、毎年数点が三大紙に掲載されている。</p> <p>【内容】 文の型を意識するところからはじまり、「一文を短くする（三行以内）」「主語はあらわに書き込む」「文末は率直で飾りのないものにする」「文と文の関係をあらわす言葉を入れる」「結論を先に出して書く」「感情をあらわにせず客観的に書く」などのルールを徹底して書く。このことにより、自分の「思ったこと」が「整理され」、そのまま「文章にできる」というプロセスが身につく。</p>

「地域文化B」

【ねらい】

地域の文化を学ぶことの意味を理解し、また地域文化の活力に実際に触れることで、地域コミュニティーに創造的に関わる力を身につけることを目的とする。

【特色】

学生にフィールドワークを課すことにより、地域文化の特色を調査と分析という体験学習を通して身につける。また、地域の文化人との交流をはかって、現在における最高レベルのフィードバックを学生にはかる。

【内容】

地域文化（歴史・芸能・民俗・文学）を体系的、総合的に学ぶ。特に、幕末から現代までの歴史と、民俗、文化財について学ぶ。

「日本文学史概論（近現代）」

【ねらい】

明治期から現代にかけての日本の主要な文学作品についての理解を深めるとともに、現代日本の文化状況を考えるための基礎的な知識を身につける。

【特色】

主題や物語性と、それを支える表現とをわけて考えることで、文学作品を読むための手掛かりを与える。学生が単に感想を述べることから離脱し、作品を論じることができるよう努める。

【内容】

明治期から現代にかけての日本の主要な文学作品を取り上げ、それぞれの時代やジャンルにおける主題や表現の特徴を学びながら、文学の持つ可能性を考えていく。

「演習（生活文化）I」

【ねらい】

4年時の卒業論文執筆に向けて、歴史研究の手法（参考文献・資料収集、資料の分析方法）を身につけてもらう。

【特色】

参考文献や資料を収集し、さらにそれらを分析し報告してもらう。ディスカッションに重点をおき、報告者だけでなく、受講者全員で授業を作っていく。

【内容】

前期は論文を読み込み、後期は歴史の資料を解読し、分析・考察を行う。事前に配られた論文や資料をもとに分析・考察をおこない、その成果を授業中に報告し、その後ディスカッションをおこなう。

「卒業論文」

【ねらい】

大学4年間の学びの集大成といえるものが卒業論文である。卒業論文には、参考文献や関連資料を収集、整理し、自己の仮説を論理的、説得的に記述することが求められる。これらの作業を通じて、専門的知識をよりいっそう深めてもらう。

【特色】

3年次及び4年次の選択必修科目である各「演習」科目での課題発表、報告の経験を活かし、各自の関心にしたがってテーマを設定し、取り組む。課題発見力、情報収集力、情報分析力といったスキルを身につけてもらう。

【内容】

4月に履修登録した指導教員のもとで、個別・随時の指導によって卒業論文を完成させていくことになる。自分が関心のあるテーマで指導教員の指示にしたがって進めてもらう。